

<u>コナホマレの多収栽培のための最適栽植法</u>	分類	普及技術
<p>〔要約〕原料用甘しょコナホマレは、いも個数が少ない個重型品種で、収量を増やすためには、上いも個数の確保および上いも1個重を大きくする必要がある。畦幅は植込株数を増やすため90cm、上いも1個重を増やすため株間は50cmと広い方が良く、これにより株当たり上いも個数、上いも1個重が増加する。このことからコナホマレに適する栽植法(密度)は、畦幅90cm×株間50cm≒222株/aである。</p>		
農業試験場大隅支場営農研究室	連絡先	0994-62-2001

〔背景・ねらい〕

原料用甘しょは、でん粉輸入自由化が懸念されることから、多収・高でん粉価の品種導入が強く求められている。このような情勢の中、新しく奨励品種として導入されたコナホマレは、これまでの既存品種とは異なる栽培特性を示すため、畦幅、株間、施肥量等、最適な栽植条件を明らかにし、多収栽培技術を確立する。

〔成果の内容・特徴〕

1. 上いも収量は、標準の畦幅90cmが100cmの大畦より多収である。これは、栽植密度が畦幅90cmで平均250株/a(222~278株/a)、畦幅100cmでは平均225株/a(200~250株/a)と栽植密度の違いによるものである。(図1、表1)
2. 上いも個数は、畦幅の90cmが100cmの大畦より多い。これは、畦幅90cmで平均250株/a(222~278株/a)、畦幅100cmでは平均225株/a(200~250株/a)と栽植密度の違いによるものである。(図2、表1)
3. 上いも個数は、株間40cmが、株間50cmより多い。これは、株間40cmで平均264株/a(250~278株/a)、株間50cmでは平均211株/a(200~220株/a)と栽植密度の違いによるものである。(図3、表1)
4. 上いも1個重は、株間50cmで平均358g/個、株間40cmで平均324g/個と株間50cmが重く、広い株間が有効である。(図4、表1)
5. 株当たり上いも個数は、株間50cmで平均5.0個/株、株間40cmで平均4.3個/株と広い株間が有効である。(図5、表1)
6. 以上のことから畦幅は、上いも収量、個数から90cmが、株間は、上いも1個重、株当たり上いも個数から50cmが適当で、コナホマレ多収栽培のための栽植条件は、畦幅90cm×株間50cm≒222株/aである。(図1~6、表1)

〔成果の活用面・留意点〕

1. 適応地域は、原料用甘しょ栽培地帯
2. 栽培期間が200日を越えると腐敗いもが増加するため、概ね180日を目安に掘り取る。
3. 遅植えでは収量が期待できないため4月~5月中旬までのマルチ栽培が適する。
4. 多肥栽培では腐敗いもが増加するので留意する必要がある。

〔具体的なデータ〕

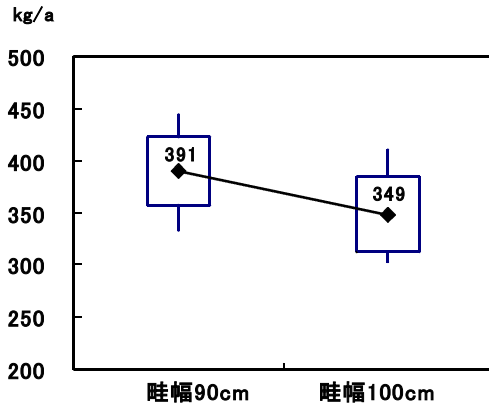


図1 上いも収量に及ぼす畦幅の影響

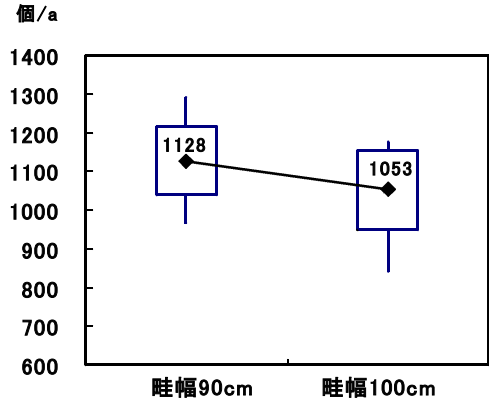


図2 上いも個数に及ぼす畦幅の影響

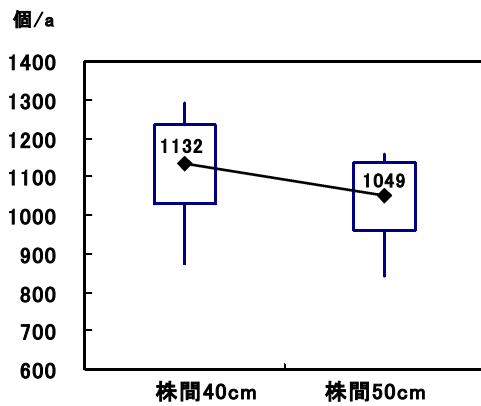


図3 上いも個数に及ぼす株間の影響

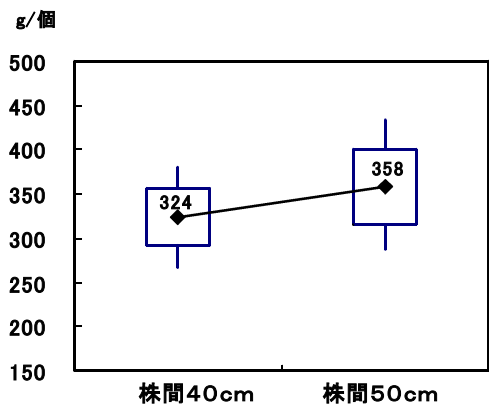


図4 上いも1個重に及ぼす株間の影響

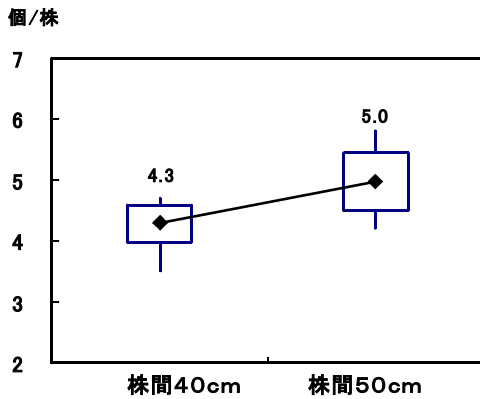


図5 株当たり上いも個数に及ぼす畦幅の影響

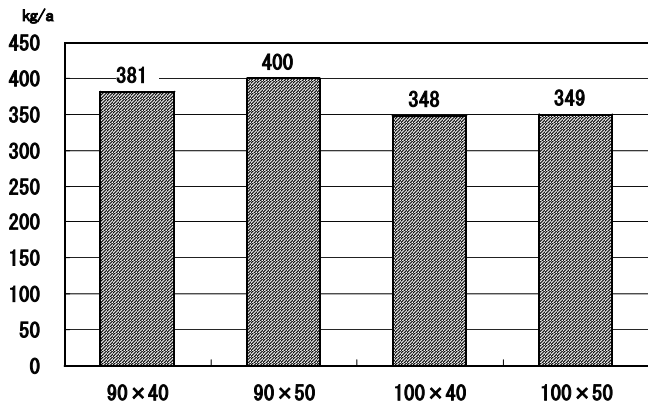


図6 収量に及ぼす畦幅×株間の影響

表1 畦幅、株間、施肥量がコナホマレに及ぼす影響 (cm、kg/a)

項目	つる重	上いも			株当個数	でん粉収量
		個数	収量	1個重		
畦幅(90, 100)	—	90*	90**	—	—	90**
株間(40, 50)	40**	40**	—	50*	50**	—
施肥量(1.2, 1.6)	1.6**	—	1.6*	—	—	1.6**

***1%、*5%水準で有意差あり、—は影響なし。

〔その他〕

研究課題名：国際化対応多収穫・低コスト甘しょ生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成11～13年度

発表論文等：平成11～14年度 春夏作試験成績書（鹿児島県農業試験場大隅支場営農研究室）